

平成25年度 障害当事者部会の活動について

◆実施状況

第1回（平成25年7月30日）

- ・ 自立支援協議会及び各専門部会についての説明
- ・ 相談支援専門部会との意見交換（テーマ「相談について」）

第2回（平成25年11月7日）

- ・ 就労支援専門部会との意見交換（テーマ「仕事について」）

第3回（平成26年1月16日）

- ・ 権利擁護部会との意見交換（テーマ「金銭管理について／日常生活での出来事について」）

《平成25年度 障害当事者部会の下命事項》

- ① 各専門部会から質問されたテーマについて、意見交換をすること。
- ② 障害当事者部会で検討された内容について、自立支援協議会（親会）へ報告すること。

⇒この下命事項に基づき、以下の通り、各専門部会との意見交換を行った。

◆各専門部会との意見交換

（1）相談支援専門部会からのテーマ「相談について」

- ・ 今まで困った時に相談した相手

⇒ 施設の職員、友達、飲食店の店員 など

- ・ 委員から出た意見

- ⇒ 同性よりも異性の方が相談しやすい
- ⇒ 区役所の職員などよりも、バーやスナックの店員といった、インフォーマルな人たちの方が相談しやすい
- ⇒ ピアカウンセリングや当事者同士の交流は、多くの情報を得られるので有益である（自分のためになる）。
- ⇒ どこに相談すればよいのか分からない
- ⇒ 周囲の人と交流を持てる人は良いが、なかなか交流を持っていない人もいるので、そういった人にはどのように情報を提供していくかが課題

(2) 就労支援専門部会からのテーマ「仕事について」

委員の就労状況（平成25年11月現在）

⇒ 働いている方が2名、働いていない方が4名。

仕事の内容

⇒ 清掃業（週5日、1日7時間）

⇒ 雑貨食料品店の店員（週1日、1日3時間）

⇒ ピアカウンセラー（月1回、1日2時間）

* 働いていると答えた2名とも、自分の希望とする働き方が出来ているとのことだった。

その他意見

⇒ 働いていない人も、自分に合う仕事があれば、働きたいと思っている。

⇒ 体調が悪く休むときやすなど、障害の特性に合わせた配慮や、障害者が自分に合った仕事を見つけやすいような体制づくりが必要。

⇒ 長く働き続けるためには、障害についての周囲の人の理解を進めることが必要。特に、実際に仕事で関わる人の理解を進める必要がある。

(3) 権利擁護専門部会からのテーマ「金銭管理について／日常生活での出来事について」

事例検討（グループホームに住む知的障害者のお小遣いの使い方）

◇ 本人がお小遣いを全て使って、好きなアイドルのDVDを買おうとするのを職員が止めたことに対して。

⇒ 本人の買いたいものが高額ということもあり、職員が止めたことについては一定の理解が示されたが、委員からは、「お金の使い方は自分で決めたい」、「自分の価値観や考えを大切にしたい」、「無駄遣いだったとしても、そこから失敗する体験や学ぶ権利を与えてほしい」という意見があった。

【日常生活の中での嬉しかったこと、嫌だったこと】

⇒ 周囲の人が気を遣ってくれたり優しくしてくれることが嬉しい。

⇒ 気を遣われすぎると疲れてしまうし、自分でできることは自分でやりたい。

⇒ 障害があることで対等でなくなると感じる

などの様々な意見があり、障害者の権利を守ることの重要性が挙げられた。